

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（産業活性化プロジェクト促進事業、地域魅力アップ イベント創出育成事業）
開催日時	令和5年4月21日（金） （午前・午後）11時00分 開会 （午前・午後）2時50分 閉会
開催場所	茨木市男女共生センターローズ WAM501
議長	野口 義文 氏（立命館大学 副学長）
出席者	野口義文氏（立命館大学 副学長）、伊津田崇氏（中小企業診断士）、辻 田素子氏（龍谷大学 経済学部）、高岸功氏（北おおさか信用金庫 業務推 進部）、板倉幸司氏（公募市民）
欠席者	なし
事務局職員	河原商工労政課長、武部商工労政課長代理兼商工振興係長、 大下商工労政課職員、上山商工労政課職員 【4人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業及び茨木市産業活性化 プロジェクト促進事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金の選考について ・資料3 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金 審査基準及び配点表 ・資料4 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料5 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金の選考について ・資料6 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1～6説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

1件目の茨木市建設総合協同組合（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：前回の実施後の課題点と、今回の改善点があれば伺いたい。

申請者：前は人気の重機の搭乗時間の待ち時間が長かった。今回は1回あたりの搭乗時間を短縮する。塗り絵コーナーを設けるなど、子供たちが退屈しないような待ち時間の改善を行う。

D委員：良いイベントなので、雨天中止ではなく雨天延期で、今後は是非検討願いたい。

B委員：暑さ対策の休憩場所の設置や、トイレの増設などが必要ではないか。またイベント後のグラウンド整備や、重機搭乗時に子供たちが鳴らすクラクション音で、近隣からのクレームはなかったか。今後の発展のために、飲食店との連携を検討してはどうか。

申請者：イベント後のグラウンド整備は行う。クラクション音に文句を言いながらも搭乗した方はいた。近隣からのクレーム等はなかった。前は車での来場者が多く、道路が渋滞したため、今回は近隣駐車場の案内係を用意する。飲食店との連携も今後は検討する。

C委員：前は社員120名体制で休日出勤の取組みか。社員のモチベーションも気になる。事業予算は、130万円計上であるが、今後もその予算額での支出は大変ではないか。

申請者：収入として出店料等をいただくことを検討している。今回よりトヨタの展示コーナーを設け、スポンサー・広告料をいただくことにした。今後は、様々な企業に

展開していきたい。また、市役所とも連携したい。子育て関係課の紹介コーナーを設け、テントを各自で用意いただくと、テント設営費の削減につながる。会場を区切るフェンスもレンタル費用削減のため、フェンス以外の代用を検討している。休日出勤は、各自代休で対応した。とても喜ばれるイベントなので、社員のモチベーションは、むしろ上がっている。

E委員：事業目的の防災については、子供たちにどのようにアピールするのか。

申請者：土のうの作り方と使い方が学べる展示コーナーを設けている。土のうを通して防災を学ぶので、土のうという言葉を知らない子供たちでも防災意識が高められる。また、自衛隊の車両展示、写真撮影の他に、今回は、ロープワークを自衛隊に依頼した。

A委員：子供から年配者まで幅広い層でかなりの集客が見込める良いイベントである。様々な分野と連携して、イベントの見栄えが良くなることを願う。また、くれぐれも子供の動線に合った誘導と、来場者の安全管理を徹底してほしい。

(2) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

1件目のCO-クリエーションデザイン smileinfeel（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

D委員：市内、市外のそれぞれの入場者数は把握されているか。

申請者：市内外の入場者数について、はっきりとは把握していないが、市内の方が多いと認識している。ただ、ホームページにアクセスされた方の地域を見てみると、一番多いのが大阪梅田となっており、茨木市以外には高槻市や吹田市、府外では兵庫県や京都府、滋賀県、東京都からのアクセスもある。この数値を見てみると、府外の方からも興味を持ってもらっていると感じている。

C委員：クラウドファンディングについて、今年度は実施せず直接支援を募るとのことだが、周辺地域の人からはともかく、市外の人からこれだけ関心を持たれているのであれば、遠方の方にクラウドファンディングを募ることが有効ではないのか。

申請者：昨年度クラウドファンディングを実施したところ、知り合いの人しか支援をしてもらえず、大きな収益にはつながらなかったことがある。また一昨年にチラシやイベント会場の出口に団体のPaypayQRコードを掲載し寄付を募ったところ、多くの方に支援をいただくことができたため、今年度はそちらを実施しようと考えている。

E委員：年々集客を増やしているが、昨年度参加者数が大きく伸びた要因は何だと思うか。また参加者数10,000人はどのように集計しているか。

申請者：参加者数の集計については、コロナ禍での開催という事もあり、受付を設置しておおよその数を集計している。参加者数の増加は、市の広報誌への掲載とSNS広告が大きいと考えている。ホームページのアクセスを分析すると、一番多いのが広報誌やチラシへ掲載したQRコードからのアクセスとなっており、次いでFacebook広告からのアクセスとなっている。一昨年はホームページを見た人が300人程度だったのに対し、昨年度は5,000人ほどにまで増えているため、オン

ラインの効果は大きかったと思っている。

E委員：協賛金の金額やどのような人が協賛しているか、内訳を教えてください。

申請者：協賛して下さった方の一覧は、イベントチラシに掲載している。協賛していただいた方々でイベントに来て下さった方も多く、また「バラが好き」といった理由で協賛して下さった方もいる。クラウドファンディングを含めると、30者以上になる。これらの方々は継続的な協賛をいただけると考えている。

B委員：会場である若園公園バラ園は、中心市街地から少し離れており、近くに駅等もない場所であるが、遠方の人たちはどのような交通手段で来場しているのか。

申請者：自家用車で来られていると思われる。

B委員：トイレが混雑するようなことはないのか。

申請者：トイレの数は多くないが、昨年度は長蛇の列が出来たり、何かトラブルが起きたりという話は聞いていない。

A委員：イベントで設置されるフラワーコーディネートバラは、園内に咲いているバラでは無いと思うが、実際に園内のバラを利用して何かイベントができると良いのではないか。

申請者：現在フラワーコーディネートを担当している方と相談しており、イベントでしか買えない一品ものとして、園内の落ちてしまったバラを埋め込んだキャンドルポットなどを作成し、販売をすることを計画しているが、実現するかは未定である。

(3) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

2件目のIBARAKI DANCE STREET 実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

B委員：イベントの開催時間が22時までとなっており、ダンスイベントのため音等の問題が懸念されるが、対策はどのようにされるのか。

申請者：昨年度、音に関してクレームがあったことを受け、今年度は周辺自治会や近隣の住民の方に事前の周知を行う予定である。また音響機材の向きを民家がある方向に向けないように対策を取っている。

B委員：会場の設営や撤去について、2日間イベントを開催するという事は、イベントの前後も合わせて4日間グラウンドを利用することになるのか。

申請者：昨年度は3日間グラウンドを確保し実施した。設営は前日から行ったが、当日は出店が22時までで、ステージはそれより早く終了するため、ステージ終了後に舞台をばらし、当日の24時までには完全撤収する予定をしている。

B委員：集客者数を5,000人と見込んでいるが、具体的な集客方法は。

申請者：SNSを活用した集客をメインとしており、代表である私個人のSNSだけでも総フォロワー数は10,000人ほどいるため、大きな宣伝効果が見込める。また同じくイベントに参加するインストラクターにも告知をお願いしているため、全て合わせるとかなりの宣伝効果になると考えている。

B委員：参加者の控室はどのようにするのか。

申請者：クリエイトセンターを利用予定である。

- C委員：来年度以降の計画を見ると「その他収入」の金額が大きく増えると想定されているが、これは出演者の数が増えることによる増収を想定しているのか。
- 申請者：出演者が増えることによる収入増を見込んでいるが、出店する事業者数も最大80店舗まで予定しており、そちらについても徐々に増やしていこうと考えている。また出店料についても現在はイベントを立ち上げたところであるため少額にしているが、1店舗あたりの出店料も徐々に上げていく予定である。加えてTシャツ販売も行っているため、そちらも売上を伸ばしていきたいと考えている。
- C委員：来年度以降委託費も増額になっているが、これらは何に対する経費になるか。
- 申請者：出演者の増加に合わせて、ステージの大きさを変える必要があるが、ステージを大きくすると委託費が跳ね上がるため、必然的に金額が大きくなってしまう。また最終的にはステージに屋根を付けたいと考えており、屋根を付けるとそれだけで金額が倍増するため、出演者数が増えるのに合わせて、徐々にステージをグレードアップしたいと考えている。
- E委員：出演者は学生も多いと思うが、出演料の2,500円は学生にとっては大きな金額になるのではないか。また昨年度ダンスチームの招へいで60万円ほど経費を見込んでいるが、これは経費バランスとして妥当なのか。
- 申請者：今後ダンスのプロリーグの選手や、茨木市の特別観光大使の中務裕太さんもゲストダンサーとして参加してもらいたいと思っており、そのような有名ゲストを招へいするためにも、一定の金額を支払うことは必要であると考えている。
- A委員：2024年のオリンピック種目にも追加されたため、モチベーションも上がっていくと思われる。ぜひそのようなことにもリンクさせていってもらいたい。

(4) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

3件目のIBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

- D委員：収支予算書について、プロの方に出演してもらう際には報酬は基本的に事務局が払うのか。ボランティア等に出演してもらうのは難しいのか。
- 申請者：出演者にボランティアで来てもらうと、クオリティを保つことが難しくなる可能性がある。ただ、私自身がつながりのある方については、相場より安い金額で出演してもらっている方もいる。また他のイベントではチップ制やCDの販売を導入しているケースや、出演者の厚意で無料で出演している方がいらっしゃるケースもある。しかしそのような方法だと、出演者のコントロールが出来なくなってしまう可能性もあるため、ある程度出演料を払うことは必要だと考えている。
- C委員：年々入場者数を増やしていくつもりだと思うが、集客は最大どれくらいになると想定されているか。会場の性質上、定員等はあるか。
- 申請者：現在でも駅前に観客席を設けられる場所はかなり少なく、同時にたくさんの人に見てもらうのは難しい状況ではある。ただ前回の開催でも満員で人が溢れかえるような状況にはなっていない。またIBALAB@広場はかなりスペースが広く、そこを満員にしようと思うと、最低でも500人ほど収容できると考えている。そのた

めこのまま集客が増えていったとしても、すぐにすべての会場のキャパシティを超えるような状況にはならないと考えている。

C委員：しばらくは現状の集客を続けていくという事か。

申請者：そのつもりで考えている。また来年度以降はおにクルも利用できるため、会場の一つとして利用することや、さらに JR 茨木駅付近までエリアを拡大することも考えており、エリアの拡大に合わせて音楽に限らないコンテンツも増やしていきたいと計画している。

C委員：昨年は文化振興財団の補助金を利用しているが、本補助金の主旨とは少し異なるのではないか。

申請者：文化振興財団の補助金は、コロナ禍を経ての文化活動の再開支援が目的の補助金だった。本イベントもコロナによって2年間開催が出来ずミュージシャンや協賛金も集めにくい状況だったため、こちらの補助金がイベントの主旨と合致すると考え、昨年度は文化振興財団の補助金を利用することにした。一方で今年度は昨年のイベントの再開を経て、市内事業者への波及や、学生との連携もイベントに盛り込んでいる。

B委員：今年度も昨年度と同一の会場で実施予定か。市役所前から阪急茨木市駅周辺に会場が集まっているのは、演者の移動をスムーズにするなどの目的があるのか。

申請者：現状では昨年度と同一の会場での実施を予定しているが、声掛けやイベントがあれば、それに応じて場所を増やしていくことは可能である。会場のエリアについては、阪急茨木市駅と JR 茨木駅は少し距離が離れており、かつその間で会場にできる場所が限られるため、どうしても会場ごとの距離が遠くなってしまうことがある。

B委員：演者が各会場を回って演奏する形式になっているが、タイムテーブルや控室もすでに準備を進めているのか。

申請者：控室は福祉文化会館や、阪急茨木市駅横の建物の一室を利用させてもらっている。タイムテーブルも、スムーズな進行ができるように毎年考えて組み立てを行っている。

B委員：会場の人だかりや騒音対策はどのようにされているか。

申請者：騒音対策については、会場ごとに個別に音量を設定し、演者に遵守してもらっている。人だかりについては毎年警備員を配置していたが、昨年はあまり柔軟に対応できていないところもあった。理由としてイベントを2年間開催できなかったことにより、ボランティアスタッフのノウハウが途切れてしまった部分があったため、今年度は改めてボランティアスタッフへの研修をしっかりと行ってから、イベントを迎えたいと考えている。

E委員：協賛金について、どのような会社が協賛しているのか。

申請者：協賛金については、茨木市内の企業が多く、その他にはライオンズクラブやソシオビル内のテナント及びビル周辺の方々からの協賛も頂いている。

E委員：協賛金について、確保の見通しは立っているか。

申請者：コロナ前もすでに目標額以上の協賛を頂いており、昨年はコロナもあったため積極的に協賛依頼は行わなかったが、今年度は情勢的にもしっかりと協賛金を集めら

れる予定である。また今までは、イベント内容が音楽と飲食のみだったが、イベントの幅も広げているため、協賛してくださる企業も増えてくるのではないかと考えている。加えて広告協賛だけでなく、イベント内で収益を確保できるような企画もできないかと内部で検討している。

E委員：支出の半分以上が出演者の報酬となっているが、支出の比率としては適正なのか。

申請者：プロのミュージシャンを呼ぶことによって、それを目的に市外のファンの方が茨木市に足を運ぶことに繋がり、茨木市全体のPRにもつながっていくと考えている。そのような効果も含めると、報酬額としては妥当な金額だと考えている。

B委員：まちづくり会社であるFICベース株式会社との連携とあるが、具体的にはどのような企画を考えているか。

申請者：昨年はFICベースが実施する「蚤の市」を同日に開催していた。同じイベント内で企画をすると、お互いのコンセプトがぶつかってしまうため、それぞれイベントを開催することによりお互いに認知度を高め、いい空間を作っていくような協力関係で進めて行こうと考えている。

A委員：集客はどのように数えているのか。

申請者：各会場でカウンターを持ったスタッフが目視でカウントしている。会場ごとの集計になるので、複数の会場を回っている人はどうしても二重三重にカウントしてしまっている可能性がある。ただ、お客さんが一つの会場で落ち着いてしまい、あまり動かない傾向があるとイベントを開催して感じている。そのためどの会場でも入場者が重複しているという事は無いと思っている。

5 審査結果

(1) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件

①茨木市建設総合協同組合

500点中 382点 ⇒ 採択案件

(2) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件

①CO-クリエーションデザイン smileinfeel

500点中 383点 ⇒ 採択案件

②IBARAKI DANCE STREET 実行委員会

500点中 358点 ⇒ 採択案件

③IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 実行委員会

500点中 373点 ⇒ 採択案件

<選考基準>

出席委員の評価点合計の65%以上(100点×5人×65%=325点)を取得した事業を、採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の1/2(100点×1/2=50点)以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上